

◇現代社会と青年◇

鉄道路線

十三位から七位へ

株式会社キャリアコンサルティング
代表取締役社長

むろだて いさお
室館 勲



弊社キャリアコンサルティングが運営する「しがく式」では、若者のリーダーシップの基礎教育をおこなっています。八十一あるレッスンの中に「掃除・整理整頓」というレッスンがあります。「ブロークンウインドウ理論」や、ジュリアーニ市長が実施したニューヨーク市の犯罪数改善事例を挙げながら「掃除や整理整頓をして身の回りをキレイにすることで、物事が発展・好転していく」ということを教えています。話を聞いて実行する若者も多く、好評のレッスンです。

その中で一人、鉄道会社勤務の当時三十歳の青年Mくんがこのレッスンに感動しました。彼が運転士を担当する路線は、首都圏から地方へと続く長い路線で、夜の電車ではお酒のカン・ビンなどのゴミが散乱し、都心部十六路線のキレイ度ランキングでは十三位という、ゴミが散乱している状態の多い路線でした。

終着駅に着くと、折り返し運転のために運転士は反対側の車両まで移動します。

そこでMくんは、移動時に大きなゴミ袋を持って全ての車両のゴミ拾いを始めたそうです。先輩からは「運転士がゴミなど拾うものじゃない」と指摘されましたが、Mくんは信念を貫き、掃除を続けました。すると、Mくんの姿を見た後輩たちが「ボクもやります」と、掃除をする運転士や車掌が一人二人と増えていったそうです。二年が経ちました。当時十三位だったキレイ度ランキングはなんと、七位にまで上がったのです。一人の「ゴミを拾う」という行為が周りを巻き込み、結果、路線の順位を大きく上げることにつながったことは、素晴らしいことだと思います。

その鉄道会社では、運転士から次の輸送指令員に昇進することは難しいと言われているようですが、Mくんは日々の勤務態度が上司に認められ、見事、輸送指令員に昇進しました。これは、その鉄道会社の約三十年の歴史の中で、歴代二番目の出世スピードだったそうです。

人材育成の仕事をしていると、すごい経歴の学生と出会います。ただ、上に上がっていく人の特徴は、過去の経歴ではなく、素直な心で目の前のできることを実行していく「感動力」だと思います。感動は「感・即・動」が語源だとも言われます。小さな一つの行動から世の中は変わっていくことを、Mくんから改めて学びました。皆様も「こんなちっぽけな仕事をやっても無理」とニヒリストになるのではなく、目の前の行動、ゴミ拾い一つからでも始めてみてはいかがでしょうか。